# スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの教え

### －バクティの理想とヴェーダーンタの知識の融合

2013年2月17日

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕151周年記念祝賀会

スワーミー・シャマーナンダ師による講話

於・逗子協会

私たちが今日得られるヴィヴェーカーナンダの教えは、彼の講演や手紙、会話によるものです。一つの講演の中には多くのトピックが含まれていて聞いている人には面白いかもしれませんが、一つの教えを理解しようとする時にはある困難に出会います。それは、ある講演では言われなかったことが他の講演に入っていることが多くあるからです。例えば、『ギャーナ・ヨーガ』や『バクティ・ヨーガ』などという本はいくつかの講演を集めて本にしたものです。ですから、ギャーナ・ヨーガが何であるかを知ろうとするなら、それらの全部から要点を集めて理解しなければなりません。それで今日は、彼の教えの本質、彼が最も言いたかったこと、彼の講演すべての下に流れている教えを簡単に私なりに述べてみたいと思います。

話はさかのぼって、シュリー・ラーマクリシュナがまだ生きていらっしゃった頃の一つの出来事から始まります。それは、ヴァイシュナヴァの宗教についてシュリー・ラーマクリシュナが弟子たちと話をしていた時のことです。ヴァイシュナヴァの宗教は信者に三つのことを実践するように教えています。一つは神の名を唱えること、二つにはすべての生き物への慈悲、そして三つ目にはヴァイシュナヴァ信者への奉仕です。話の途中でシュリー・ラーマクリシュナは、すべての生き物への慈悲と言うや否や突然サマーディに入られました。そして少し意識が戻られると、彼はつぶやきました。「生き物への慈悲、生き物への慈悲だって！何てばかげたことだ。地上を這うつまらない虫けらにすぎないのに他に慈悲を示すというのか！他に慈悲を示すというお前は一体何者なのか。そうじゃない、他への慈悲ではなく、むしろ他を神の表れとして認め奉仕することだ」とおっしゃいました。

多くの弟子たちがその時いましたが、この言葉を聞いてその深い意味を理解したのはナレンドラ、後のヴィヴェーカーナンダだけでした。彼は言っています。「何と見事にヴェーダーンタの知識とバクティの考えを調和させたものだ。普通ヴェーダーンタの知識は世間を離れ人間的感情のないドライなものだと考えられがちなのだが、私は師の言葉からそれが社会の中で誰もが実践できるものだと分かった。もしそれが神の御意思ならば、遠からずこの偉大な真理を私が世界に説く日が来るだろう」と。そして1893年にアメリカのシカゴで宗教会議が開かれた時、かつてのナレンドラはスワーミー・ヴィヴェーカーナンダとしてこの会議に参加し、この真理を世界に向けて説き始めました。今日私たちはその教えの多くをスワーミー・ヴィヴェーカーナンダ全集として持っています。そしてその教えの根本は、すべては神の表れのみであるということなのです。

さてこの教えはシュリー・ラーマクリシュナがナレンドラに初めて説いたものなのでしょうか。なぜなら、インドではヴェーダ聖典の支持がなければ真理とは認められないからです。実は、この教えは非常に古く、ヴェーダの時代から説かれていたものなのです。例えば、イーシャー・ウパニシャッドを見てみましょう。このウパニシャッドの最初の行は、「何であれこの世の全てのものを神によって覆え」と説かれています。マハトマ・ガンディーは、インドから全ての聖典がなくなっても、この一行が残っていればヒンドゥイズムは残る、と言っています。なぜなら、これがヒンドゥイズムのエッセンスだからです。

シュヴェーターシュヴァタラ・ウパニシャッドはもっと具体的に言っています。

（2.16）全ての所にいるのは彼（神）である。彼は人の背後に立ち、彼の顔は至る所にある。

（2.17）自ら輝く主は火の中、水の中、全世界の中、草や木の中にもいる。

（4.3）汝は女なり、汝は男なり。汝は少年なり少女なり。汝は杖に寄りかかって歩く老人なり。様々な姿を取っているのは汝のみなり。

では、どのように全てに神を見ればよいのでしょうか。ブリハッド・アーラニヤカ・ウパニシャッドは言っています。

（2.4.5）夫は、夫故に愛されるのではなくアートマン故に愛される。妻は、妻故に愛されるのではなくアートマン故に愛される

これらは、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの講演の中にも多く引用されているものです。その言いたいことは、私たちの愛の対象となっているものは神なのだということです。たとえそれが犬や猫、草花であろうと、私たちは知らず知らずにそこに神を見ているからそれらを愛するのです。ヒンドゥー教では神の一つの名としてハリというのがあります。それは、私たちの心を奪う者という意味です。私たちの心を奪っている者、私たちの心を惹きつけている者は神だというのです。極端な言い方をすれば、神を求める必要はありません。なぜなら、神があなたを惹きつけているからなのです。神を知らなかったら、神を求めることがあるでしょうか。ここにあるシュリー・ラーマクリシュナの御写真を神として礼拝することができるなら、どうして私たちの周りにある草木、動物、人々を神として礼拝することができないのでしょうか。私たちは見知らぬ人にも挨拶をします。その時、私たちは相手の中に何を見て挨拶しているのでしょうか。同様のことは、子供や動物についても言えます。私たちは犬や猫に話しかけますが、一体何を見て話しかけているのでしょうか。少し考えてみてください。

最後に、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの詩を引用しましょう。この中に、彼の教えのエッセンスがあります。

聴きなさい、友よ、私は心の中を打ち明けましょう

人生の中で、私はこの最高の真理を発見しました

人生という渦巻きの中で波に打ちのめされている人よ

一つのフェリーだけが海の向こうに連れて行きます

礼拝儀式や呼吸制御、

科学や哲学、様々なシステム、

これらは全て心の迷い以外の何ものでもありません

愛、愛のみが唯一の宝です

与えなさい、全てを与えなさい

お返しを求める時、富に満ちる大海は一滴の水にまでなります

全てが神の表れであると知る時、本当の愛が生まれ、また自分も神であるということを知るのです。その時、ヴェーダーンタの知識とバクティの愛が同じものだと悟るのです。要は、全ては神の表れである、それがインドで古くから伝えられてき、またシュリー・ラーマクリシュナやスワーミー・ヴィヴェーカーナンダによって再び述べられた教えなのです。